



ドナー休暇の普及を願い

12月18日(木)、いがた・骨髄バンクを育てる会(新潟市白山浦2-2-03 電話23315963)が、全国に先駆けて企業に対するドナー休暇に関するアンケート調査を行いました。これは、骨髄バンクのドナー登録者数引き上げの大きな障害となっている検査や骨髄提供のために必要な休暇制度の普及を図るため行ったものです。当日は、同会黒埼支部の皆さんが中心となり、県内の企業1,000社に送るアンケート用紙の封筒詰め作業を保健センターで行なっていました。

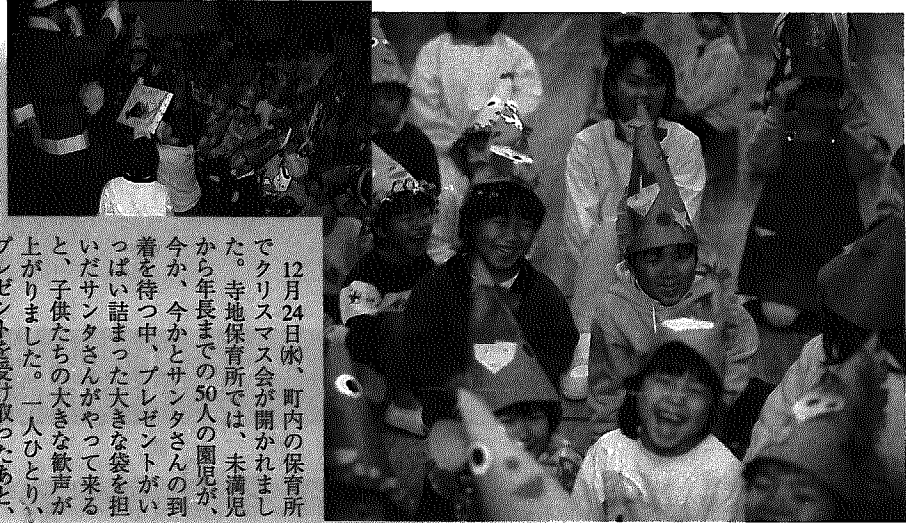


12月13日(土)、北部地区公民館で遊びのひろば「クリスマスリース作り」が行われました。小学生15人が参加し、木のつるで編んだリースの土台に、松ぼっくりやバラの実、ドングリなどを針金やボンドを使い思い思いにくくり付け、最後に赤いリボンを取り付けてステキなリースを作りました。

木の実のリースができたよ

サンタさんありがとう

12月24日(水)、町内の保育所でクリスマス会が開かれました。寺地保育所では、未満児から年長までの50人の園児が、今か、今かとサンタさんの到着を待つ中、プレゼントがいっぱい詰まった大きな袋を担いだサンタさんがやって来ると、子供たちの大きな歓声が上がりました。一人ひとり、プレゼントを受け取ったあと、みんなでジングルベルの歌をうたったり、踊ったりすると、手作りのキラキラ三角ぼうしも挿れて、とっても楽しい一時でした。サンタさんが帰ったあとには、クイズやパズルを楽しんだり、年長の子供たちから学校のことについて質問されると、卒園児たちはちよっぴり照れながらも、先輩らしく勉強のことも楽しい休みの時間のことなどを話していました。



年賀状が出発

1月1日(木)、大野町郵便局で元旦出発式が行われました。これは、同郵便局管内の11,600世帯、662,000通の年賀状の配達を正確かつ安全に届けるために行われたものです。朝8時から始まった式では、郵便局長や町長らが、33人のアルバイトを含む60人の職員に、あいさつを述べたほか、郵便配達業務の無事を祈り、ヤクルトで乾杯を行いました。その後、テーブルカットを行い、年賀状を携えた数十台の自転車で管内の家庭に向かって出発しました。



12月13日(土)、農村環境改善センターで町認定農業者連絡協議会の設立総会が行われました。この会は、町認定農業者の皆さんが、農業生産技術向上及び経営の合理化を目指し、地域農業の担い手としての自覚を持ち、地域農業の発展に寄与することを目的に発足したものです。総会は、町長や町農業委員会会長も来賓として出席し、協議会の規約や事業計画などを話し合いました。なお、会長には善久の阿部剛さん、副会長には板井三の広瀬喜一郎さんが選任されました。



地域農業の担い手